

陶磁器産業

令和6年度



主任研究員 荻山 拓磨



目次

陶磁器について	2
美濃焼について	4
岐阜県の陶磁器産業	9
陶磁器産業の課題と取組み	20
環境問題やSDGsの取組み	25
他産地の動向	27

陶磁器について

< 陶磁器の種類 >

- ◇ 陶磁器は粘土、長石、珪石（けいせき）などを原料にしたやきものの総称である。
- ◇ 大きく分けて「陶器」「磁器」「炆器」「土器」に分類される。
- ◇ その中でも代表的なものは「陶器」と「磁器」である。

「陶器」と「磁器」の特徴

	陶器	磁器
原料	粘土が主	陶石を粉碎した石粉が主
素地	焼きが柔らかく、質が荒い多孔質。 淡い色から黒色まで多様な色	焼きが硬く、質が緻密で気孔は少ない。 純白色
焼成温度	1100～1250℃	1200～1300℃
たたいた時の音色	低く濁った音	金属的な澄んだ高い音
透光性	なし（光が透き通らない）	あり（光が透き通る）
吸水性	あり	なし
破砕面	破片は不透明で土状	破片は白色でガラス状
ルーツ	朝鮮（日本では各地）	中国（日本では有田）
柄色合い	素地の土の風合いを生かした色のほか、 焼成や釉掛けで多様な表現	無地のものから鮮やかな絵付けをした ものまで多様多種

陶器



磁器



出所：公益社団法人日本セラミックス協会

陶磁器について

< 陶磁器の有名産地 >

○ 日本六古窯

古来の陶磁器窯のうち中世から現在まで生産が続く代表的な窯の総称

越前焼（福井） 瀬戸焼（愛知） 常滑焼（愛知）
信楽焼（滋賀） 丹波焼（兵庫） 備前焼（岡山）

○ 一楽、二萩、三唐津

茶道の世界で古くから茶人の好みの順位・格付けとして言われてきた

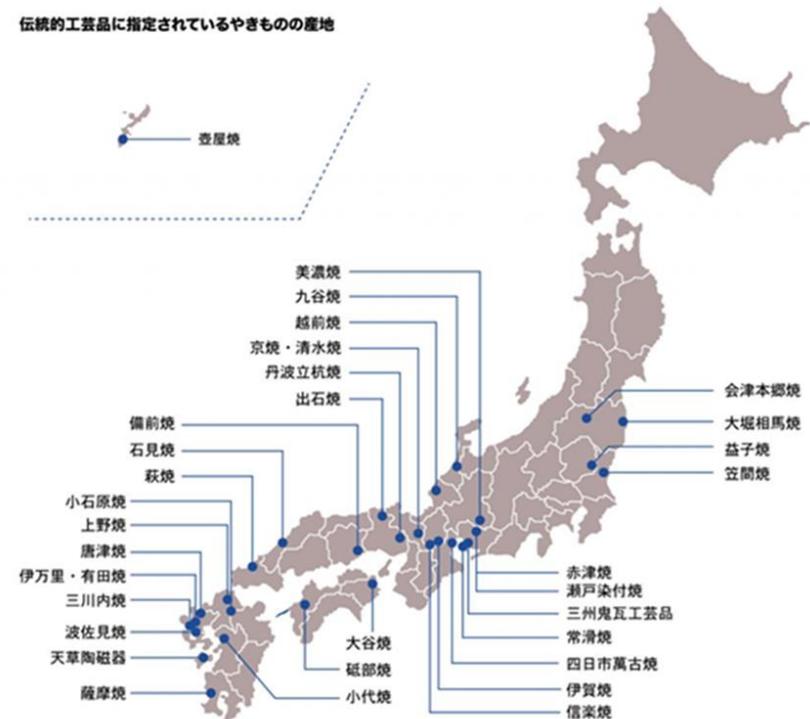
楽焼（京都） 萩焼（山口） 唐津焼（佐賀）

○ 日本三大陶磁器

美濃焼（岐阜） 瀬戸焼（愛知） 伊万里・有田焼（佐賀）

◇ 「伝統的工芸品」に陶磁器は32点指定されている。

伝統的工芸品に指定されているやきものの産地



美濃焼について

<美濃焼の歴史①>

- ◇ 美濃焼の歴史は古く、ルーツをたどると古墳時代にまでさかのぼることができ、始まりは「須恵焼」と呼ばれるものだった。
- ◇ 5世紀ころに朝鮮半島から製法がもたらされた須恵焼は全国各地へ広まり、東濃地方でも生産されるようになった。
- ◇ 平安時代には須恵器を改良し釉薬を使った陶器が焼成された。
- ◇ 安土桃山時代から江戸時代には茶の湯文化を反映した芸術性の高い焼き物が多く生産された。
- ◇ 明治時代には日常生活雑器の生産が開始し、低コストを実現するため製品別分業が発展し、全国屈指の生産能力を有していた。
- ◇ 大正時代には電気供給に伴い機械化が進み生産規模が拡大
- ◇ 昭和時代には高級品生産やタイル製造も始まった。

美濃焼について

<美濃焼の歴史②>

- ◇ 美濃焼は時代を経るごとに新しい技術が生まれ、独自の発展を遂げてきた。現代では多種多様な美濃焼が生産され、生産量は国内トップの50%超を占めるまでになった。
- ◇ 美濃焼がトップシェアを誇るようになったのは、時代の流れを読み、ライフスタイルや消費者のニーズに合った商品を作ってきたからである。
- ◇ 志野や織部など、15種類のやきものが伝統工芸品に指定されているように、それぞれが長い歴史と個性を持っている。一方で家庭向け食器や飲食店チェーン向け食器など、比較的安価な日用食器まで美濃焼は浸透している。この多種多様さが「特徴がないことが特徴」と言われる理由である。
- ◇ 美濃焼は歴史上、廉価で大量生産できる技術を構築してきた。現代において、全国シェア50%超を占めるまでに発展したのは、歴史的背景があったと思われる。

美濃焼について

< 美濃焼の伝統工芸品15品目 >

出所：美濃焼伝統工芸品協同組合



志野



織部



黄瀬戸



瀬戸黒・引出黒



灰釉



染付



天目



赤絵



青磁



鉄釉



粉引



飴釉



御深井



美濃伊賀



美濃唐津

美濃焼について

<美濃焼の産地>

良質な陶土を産出した東濃西部地域に集中

明治時代以降、内需の高まりと輸出の拡大を受け、陶磁器産業は近代化・大量生産化が進んだ。また、産業の効率化のため、製品毎の産地分業化が進んだ。



出所：岐阜県陶磁器工業組合連合会

美濃焼産地別の特徴

多治見	高田	酒徳利で有名。湯たんぽ、汽車土瓶、釜なども生産
	市之倉	盃の生産地として有名。割烹和食器の生産が多い。
	滝呂	マグカップ類の白磁製品の中心地
	笠原	モザイクタイルの生産日本一。笠原茶碗も有名
土岐北	泉	小規模事業者が多く、湯呑等が有名
	肥田	協業組合化が進み、大量生産型の産地
	土岐津	マグカップや湯呑等の量産体制の工場が多い
土岐南	妻木	美濃白磁で有名
	下石	和食器中心。徳利の生産の中心地
	駄知	どんぶりやすり鉢で有名。割烹食器を中心に生産
瑞浪	瑞浪	和・洋食器、ニューセラミックと幅広い陶磁器を生産

美濃焼について

<美濃焼の原料>

◇ 美濃焼が国内生産の50%超を占めるまでに発展した要因として、**東濃地方の良質な陶土と水**がある。

◇ 美濃焼の主な原料



木節粘土

炭化した植物の破片を含み、模様が木の節に似ていることから名づけられた。有機物を含むため、褐色、暗褐色、灰色などの色をしている。



蛙目粘土

粘土の中に混在する石英の粒子が、濡れると蛙の目にみえることから名づけられた。焼成した時の色が木節粘土よりも白くなるのが特徴。

出所：公益社団法人日本セラミックス協会

◇ 土から粘土を精製するためには水が必要となるが、東濃地方は土岐川が流れ、その支流の多くは谷川となるなど利用しやすい水資源が豊富にあった。陶土と合わせて水資源があったことも美濃焼が大きく発展した理由である。

岐阜県の陶磁器産業

<窯業・土石製品製造業の出荷額①>

【全国】

		製造品出荷額等(百万円)	構成比
	製造業計	361,774,867	100.0%
1	輸送用機械器具製造業	70,528,440	19.5%
2	化学工業	34,281,049	9.5%
3	食料品製造業	31,726,419	8.8%
4	生産用機械器具製造業	25,147,062	7.0%
5	鉄鋼業	23,941,045	6.6%
6	電気機械器具製造業	21,337,408	5.9%
7	石油製品・石炭製品製造業	18,798,971	5.2%
8	電子部品・デバイス・電子回路製造業	16,994,846	4.7%
9	金属製品製造業	16,919,926	4.7%
10	非鉄金属製造業	13,358,645	3.7%
11	プラスチック製品製造業(別掲を除く)	13,253,164	3.7%
12	はん用機械器具製造業	12,781,108	3.5%
13	飲料・たばこ・飼料製造業	10,319,774	2.9%
14	窯業・土石製品製造業	8,315,953	2.3%
15	パルプ・紙・紙加工品製造業	7,753,801	2.1%
16	業務用機械器具製造業	6,873,361	1.9%
17	情報通信機械器具製造業	6,204,956	1.7%
18	印刷・同関連業	5,046,233	1.4%
19	その他の製造業	4,712,495	1.3%
20	木材・木製品製造業(家具を除く)	3,753,844	1.0%
21	繊維工業	3,722,327	1.0%
22	ゴム製品製造業	3,719,121	1.0%
23	家具・装備品製造業	1,995,254	0.6%
24	なめし革・同製品・毛皮製造業	289,666	0.1%

◇ 窯業・土石製品製造業全体で8兆3,159億円の出荷

◇ 製造業全体の出荷額に占める割合は2.3%

岐阜県の陶磁器産業

<窯業・土石製品製造業の出荷額②>

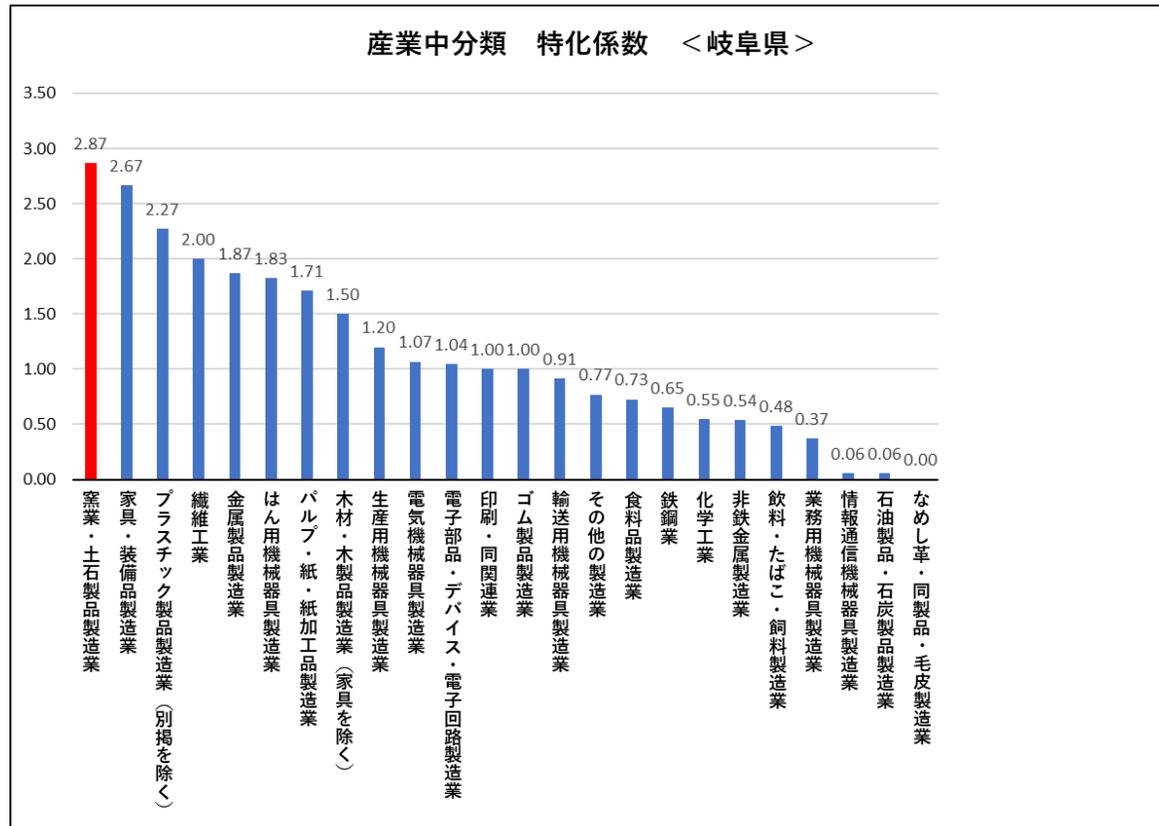
【岐阜県】

		製造品出荷額等(百万円)	構成比
	製造業計	6,541,229	100.0%
1	輸送用機械器具製造業	1,164,558	17.8%
2	金属製品製造業	573,311	8.8%
3	生産用機械器具製造業	548,651	8.4%
4	プラスチック製品製造業(別掲を除く)	546,464	8.4%
5	窯業・土石製品製造業	432,351	6.6%
6	はん用機械器具製造業	420,683	6.4%
7	食料品製造業	415,622	6.4%
8	電気機械器具製造業	411,336	6.3%
9	化学工業	341,813	5.2%
10	電子部品・デバイス・電子回路製造業	321,164	4.9%
11	鉄鋼業	280,682	4.3%
12	パルプ・紙・紙加工品製造業	236,100	3.6%
13	繊維工業	133,391	2.0%
14	非鉄金属製造業	132,579	2.0%
15	家具・装備品製造業	101,445	1.6%
16	木材・木製品製造業(家具を除く)	95,000	1.5%
17	印刷・同関連業	90,559	1.4%
18	飲料・たばこ・飼料製造業	89,210	1.4%
19	その他の製造業	67,816	1.0%
20	ゴム製品製造業	66,560	1.0%
21	業務用機械器具製造業	44,333	0.7%
22	石油製品・石炭製品製造業	18,055	0.3%
23	情報通信機械器具製造業	9,327	0.1%
24	なめし革・同製品・毛皮製造業	221	0.0%

- ◇ 窯業・土石製品製造業全体で4,323億円の出荷
- ◇ 製造業全体の出荷額に占める割合は6.6%
- ◇ 岐阜県は全国と比較し、窯業・土石製品製造業の構成比が高い。

岐阜県の陶磁器産業

< 岐阜県における窯業・土石製品製造業の位置 >



※ 特化係数とは、ある県の産業別の構成比を全国の平均的な構成比と比較することで、その県がどの産業に特化しているのかを示す指標
(特化係数 = 県内シェア / 全国シェア)

出所：2023年経済構造実態調査

- ◇ 岐阜県における窯業・土石製品製造業の特化係数をみると、**2.87**で**第1位**である。
- ◇ 窯業・土石製品製造業は岐阜県の「地場産業」として大きな役割を担っている。

岐阜県の陶磁器産業

<品目別の全国シェア①>

○陶磁器製和飲食器

	出荷額(百万円)	構成比	事業所数
全国計	26,728	100.0%	568
1 岐阜県(美濃)	11,908	44.6%	165
2 長崎県(波佐見・三川内)	4,465	16.7%	55
3 佐賀県(伊万里・有田・唐津)	4,137	15.5%	84
4 愛知県(瀬戸・常滑)	1,468	5.5%	72
5 石川県(九谷)	815	3.0%	13
6 京都府(京・清水)	790	3.0%	41
7 三重県(伊賀・萬古)	554	2.1%	16
8 栃木県(益子)	474	1.8%	11
9 山口県(萩)	302	1.1%	17
10 滋賀県(信楽)	287	1.1%	15

○陶磁器製洋飲食器

	出荷額(百万円)	構成比	事業所数
全国計	13,529	100.0%	134
1 岐阜県(美濃)	10,108	74.7%	64
2 佐賀県(伊万里・有田・唐津)	638	4.7%	14
3 三重県(伊賀・萬古)	439	3.2%	5
4 愛知県(瀬戸・常滑)	243	1.8%	17
5 愛媛県(砥部)	66	0.5%	5
6 長崎県(波佐見・三川内)	44	0.3%	3

○陶磁器用はい土

	出荷額(百万円)	構成比	事業所数
全国計	11,162	100.0%	80
1 岐阜県(美濃)	7,287	65.3%	26
2 愛知県(瀬戸・常滑)	2,296	20.6%	24
3 佐賀県(伊万里・有田・唐津)	714	6.4%	11
4 滋賀県(信楽)	545	4.9%	6
5 長崎県(波佐見・三川内)	70	0.6%	3

出所：2023年経済構造実態調査

◇ 全国の出荷額に占める割合は、和飲食器**44.6%**、洋飲食器**74.7%**、はい土**65.3%**とトップシェアを誇る。

◇ 各品目の事業所数もトップである。

岐阜県の陶磁器産業

<品目別の全国シェア②>

○内装タイル

	出荷額(百万円)	構成比	事業所数
全国計	6,394	100.0%	15
1 岐阜県(美濃)	4,603	72.0%	5

○モザイクタイル

	出荷額(百万円)	構成比	事業所数
全国計	9,601	100.0%	24
1 岐阜県(美濃)	8,492	88.4%	21

○その他のタイル

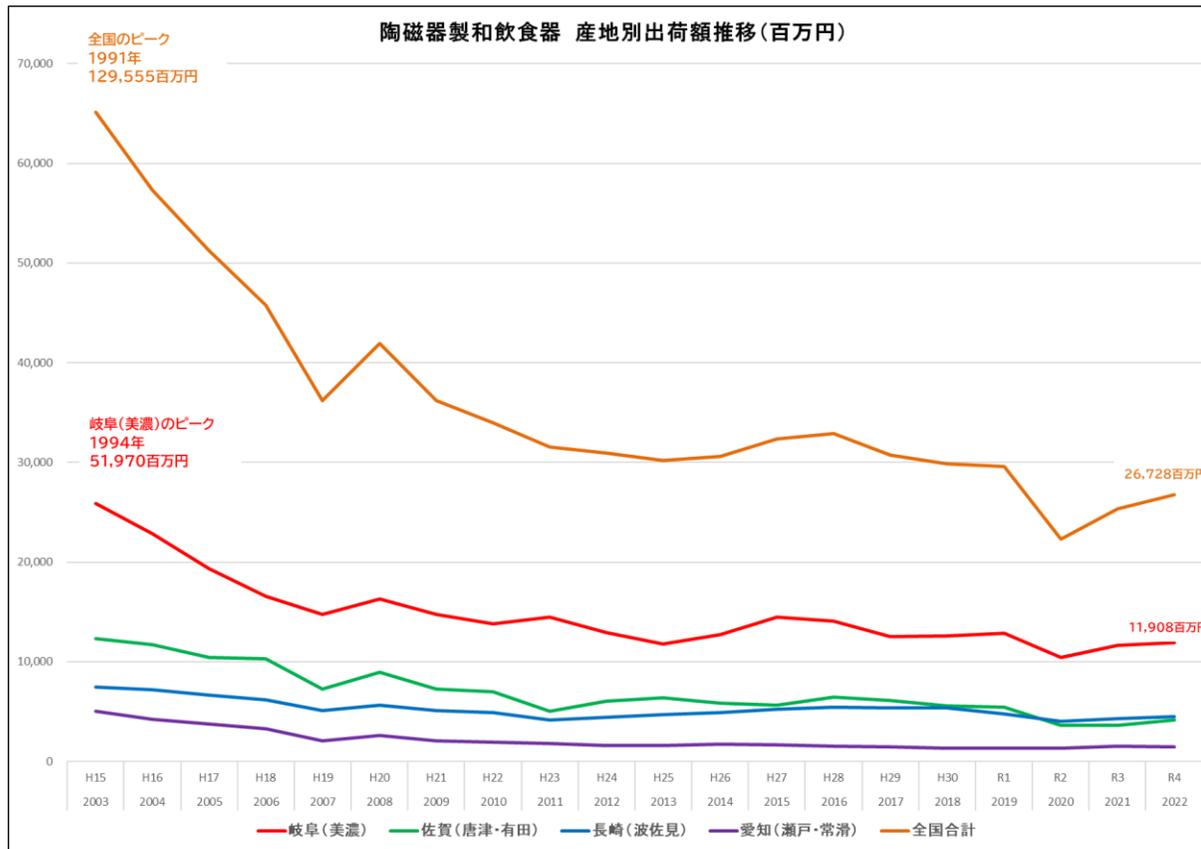
	出荷額(百万円)	構成比	事業所
全国計	22,428	100.0%	75
1 岐阜県(美濃)	12,935	57.7%	37
2 愛知県(瀬戸・常滑)	6,856	30.6%	18
3 滋賀県(信楽)	752	3.4%	4

出所：2023年経済構造実態調査

- ◇ 全国の出荷額に占める割合は、内装タイル**72.0%**、モザイクタイル**88.4%**、その他のタイル**57.7%**とタイル類もトップシェアを誇る。
- ◇ 各品目の事業所数もトップである。

岐阜県の陶磁器産業

<和飲食器 出荷額 推移>



出所：2023年経済構造実態調査

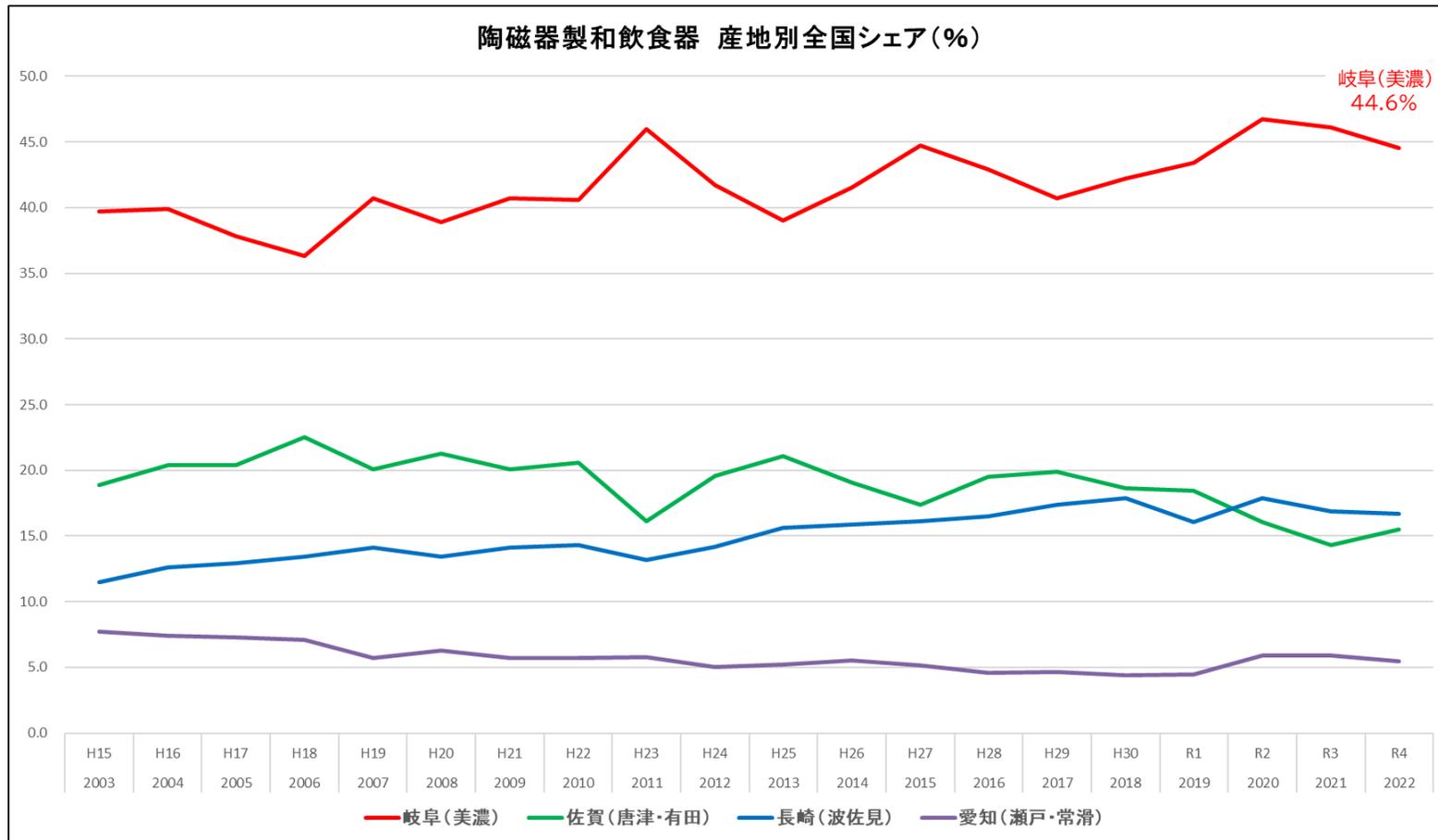
全国 1991年 **129,555百万円**
↓
2022年 **26,728百万円**

岐阜県 1994年 **51,970百万円**
↓
2022年 **11,908百万円**

- ◇ 陶磁器製和飲食器の出荷額は、全国・岐阜県ともにピーク時から大幅に減少している。
- ◇ 近年はコロナ禍に一時減少するも、その後は持ち直している。

岐阜県の陶磁器産業

<和飲食器 全国シェア推移>

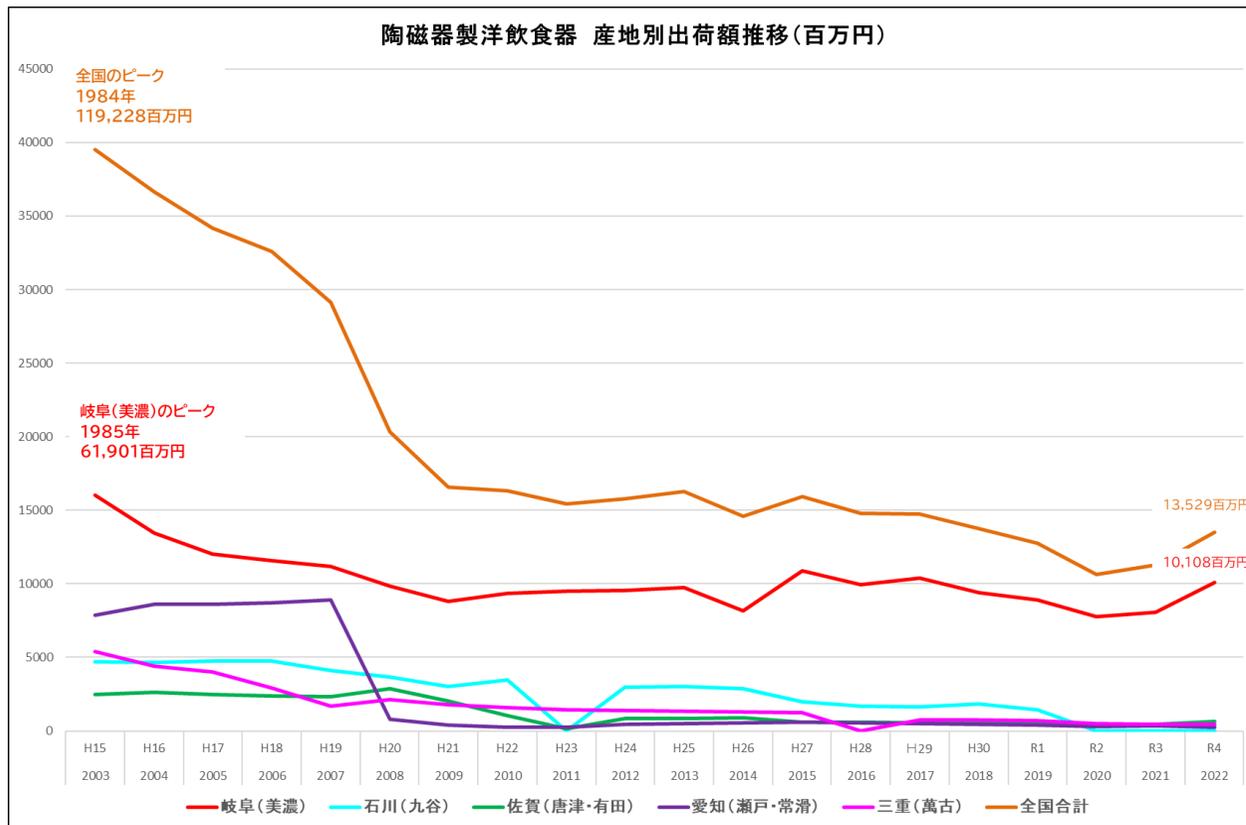


出所：2023年経済構造実態調査

- ◇ 岐阜県の陶磁器製和飲食器出荷額は**全国1位**であり、**44.6%**のシェアを誇る。
- ◇ 近年は4割超のシェアを維持している。

岐阜県の陶磁器産業

<洋飲食器 出荷額 推移>



全国 1984年 **119,228百万円**
↓
2022年 **13,529百万円**

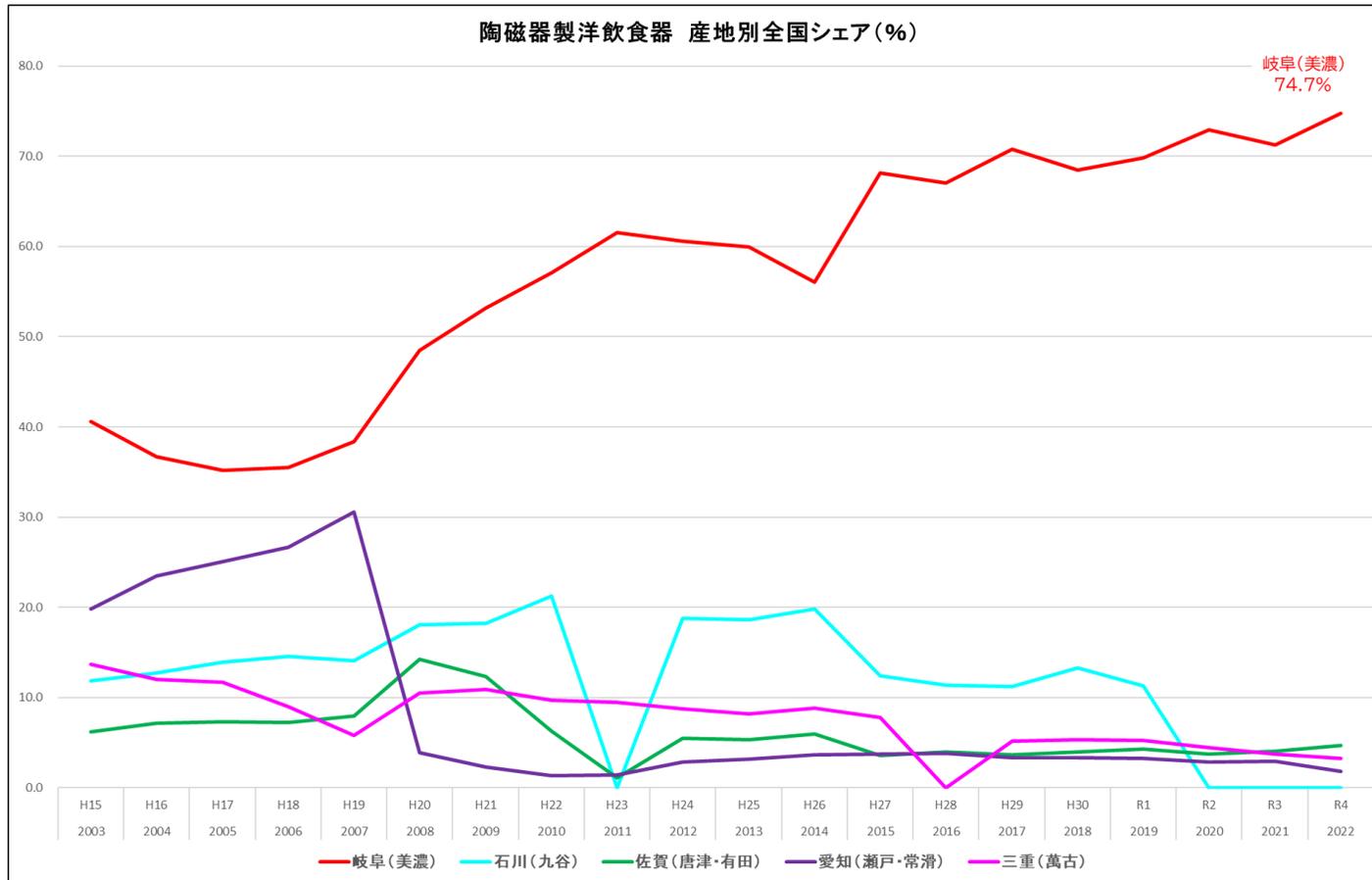
岐阜県 1985年 **61,901百万円**
↓
2022年 **10,108百万円**

出所：2023年経済構造実態調査

- ◇ 陶磁器製洋飲食器の出荷額は、全国・岐阜県ともにピーク時から大幅に減少している。
- ◇ 近年減少傾向が続いていたものの、持ち直しの動きがみられる。

岐阜県の陶磁器産業

<洋飲食器 全国シェア推移>



出所：2023年経済構造実態調査

- ◇ 岐阜県の陶磁器製洋飲食器出荷額は**全国1位**であり、**74.7%**と圧倒的なシェアを誇る。
- ◇ 近年もシェア拡大傾向が続いている。

岐阜県の陶磁器産業

<産地構造の変化>

- ◇ 半製品の工程を取り入れるなど、内製化を図る企業の増加
- ◇ M&Aによる事業譲渡、買収の増加
- ◇ トンネル窯の大量生産型地域では、大型受注を数社で分担し対応するという動きが増加
- ◇ 商社機能が低下し、インターネットの普及により従来の販売ルートが弱体化（自社EC等の増加）
- ◇ 大手業務用や輸出の一部はメーカー直販が増加

岐阜県の陶磁器産業

< 公的研究機関 >

◇ 県セラミックス研究所

陶磁器やセラミックス製品などの地場産業振興を目的に、新材料・新製品の研究と技術支援を行う。

◇ 多治見市陶磁器衣装研究所

やきものに携わる人材の育成に取り組んでいる。

デザインコース・技術コースがあり、これまでに1,000人以上の卒業生がいる。

卒業生は陶磁器メーカーや商社への就職、陶芸家として活躍している。

卒業生の多くは東濃地域で就職しており、当地域の人材確保の一助となっている。

◇ 土岐市立陶磁器試験場・セラテクノ土岐

品質向上と新素材の開発を目指す実験室、新商品を生み出すデザイン室が設置され、陶磁器産業の発展を支援している。

◇ 瑞浪市窯業技術研究所

陶磁器に関する研究開発の他、技術者の人材育成を行う。

陶磁器産業の課題と取組み

< 需要の減少 >

◇ 飲食器

- ・ 食生活の簡略化、外食の増加
- ・ 冠婚葬祭の簡素化、結婚式等でのギフト選択肢の多様化(カタログギフト)
- ・ 核家族化や人口減少による利用食器数の減少
- ・ 従来チャネルの販売減少（百貨店等による売場の減少）
- ・ 中国をはじめとした安価な海外輸入製品の増加
（100円ショップや家具量販店の製品は中国製がほとんどである）

◇ タイル

- ・ 工法の簡略化(タイル職人の減少)
- ・ ユニットバス、システムキッチンの採用やクロス貼りの増加による内装タイル需要の減少
- ・ 他建材へのシフト（ガラスやアルミによるカーテンウォールやサイディングの採用等）による外装タイルの需要減少
- ・ 住宅着工件数の減少

陶磁器産業の課題と取組み

< 需要の減少に対する取組み >

◇ 海外市場への参入

- ・ 日本のやきものは多くの外国人に人気であり、高く評価する人が増加
- ・ 販路拡大のため、海外の展示会に出展する企業が増加
- ・ フランス、ドイツ、イタリア、アメリカ等の見本市に加え、上海や香港などにも出展し、中国の市場へ攻勢をかける企業も増加
- ・ 海外での日本食ブームによる和食器の需要が拡大

◇ インバウンド

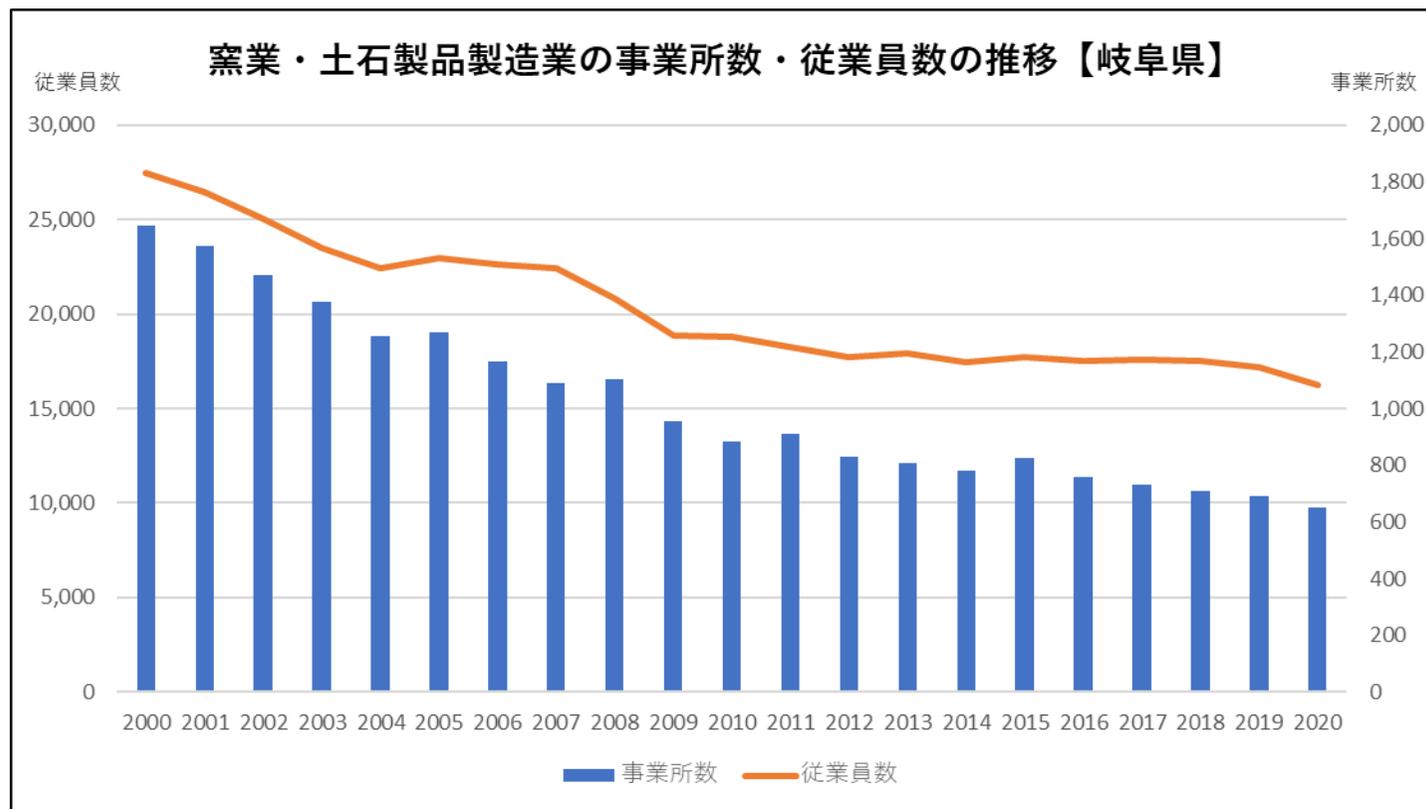
- ・ コロナが明け海外旅行が解禁されたことや2025年大阪・関西万博開催による観光客増加が期待されている。旅行者のお土産に合う商品の開発や、海外受けする日本ならではのデザインの商品開発が進められている。

◇ オープンファクトリー

- ・ 製造現場を見てもらうことやものづくりを実際に体験してもらうことでファンを作る企業が増加

陶磁器産業の課題と取組み

<人材不足、後継者不足①>



出所：2021年経済センサス

- ◇ 窯業・土石製品製造業の事業所数、従業員数は下降傾向
- ◇ 岐阜県のみならず、全国的にも減少が続いている。
- ◇ 売上不振や後継者不在による廃業が増加

陶磁器産業の課題と取組み

<人材不足、後継者不足②>

◇ 若い人材の確保

- ・ 地方の陶磁器産地では、少子高齢化に加え、都市への人口流出により若い人材が不足し、労働力の縮小が拡大
- ・ 製造現場のイメージは暑い、汚いといったマイナスのイメージが強く、若い世代から敬遠されてしまう。

◇ 伝統的技法の継承

- ・ 陶磁器の伝統的な技法や装飾は長い歴史があり、代々継承されてきた。先代から受け継いだ技法や装飾を習得している職人の高齢化に加え、それを引き継ぐ若手がないことから長年継承されてきた技法や装飾が失われてしまうことが危惧されている。

◇ 生産力の縮小

- ・ 鉱山、陶土製造、生地成型、窯元、メーカー、卸問屋など、全ての業種で人手不足が深刻化し、産地全体の労働力が低下
- ・ 人手不足により納期を守ることができず受注を断るケースも増加している。生産力の縮小が売上減少につながり、それがさらなる生産力の縮小につながるという悪循環が生まれてしまっている。

陶磁器産業の課題と取組み

<人材不足、後継者不足に対する取組み>

◇ 工場のDX化、自動化

- ・ 最先端の工場では、DX化や自動化に取り組む他、開発現場では3Dプリンタを取り入れた開発も行われ、生産性向上を図っている。
- ・ しかしながら工場のDX化や自動化には多額の投資費用がかかるため、取り組める企業は限られているのが現状

◇ M&Aによる事業譲渡、買収

◇ 特定技能外国人等の活用

◇ 職場環境、待遇の改善

- ・ 製造現場の整備を行い、製造現場のマイナスイメージを払拭
- ・ 他業種に見劣りしない賃上げの実施

◇ 公的機関との連携強化

環境問題やSDGsの取組み

< Re-食器 >



出所：グリーンライフ21 HP

- ◇ Re-食器は不用食器や使用済み食器を再利用することで、陶土を無駄に使わないリサイクル食器
- ◇ 美濃焼産地の有志企業や研究機関等が集まって発足した「グリーンライフ21プロジェクト」の主力事業である。
- ◇ 家庭や飲食店から回収した使用済み食器を粉砕し、20%や50%の割合で粘土に混ぜ込みはい土に再生し、そのはい土を活用して食器を製造している。
- ◇ 多くの企業がリサイクル食器の製造に取り組んでおり、陶磁器業界にも環境問題やSDGsの取組みが浸透している。

環境問題やSDGsの取り組み

<脱炭素美濃焼SDGsプロジェクト>

岐阜県土岐市 美濃焼のエコ焼
脱炭素美濃焼SDGsプロジェクト
ZERO CARBON MINOYAKI SDGs PROJECT TOKI GIFU



陶磁器メーカーによる脱炭素社会への取り組み



- ◇ 2050年の脱炭素社会に向け、土岐市の陶磁器メーカーが焼成温度や焼成条件などを見直すことで二酸化炭素排出量の削減を目指すプロジェクト
- ◇ 陶器は1250°C、磁器は1300°C以上の高温の窯で加熱されており、多くの二酸化炭素を排出している。焼成温度を少しでも低くできるよう各メーカーが焼成技術に磨きをかけている。

出所：土岐市 HP

他産地の動向

<長崎県 波佐見町の動向>

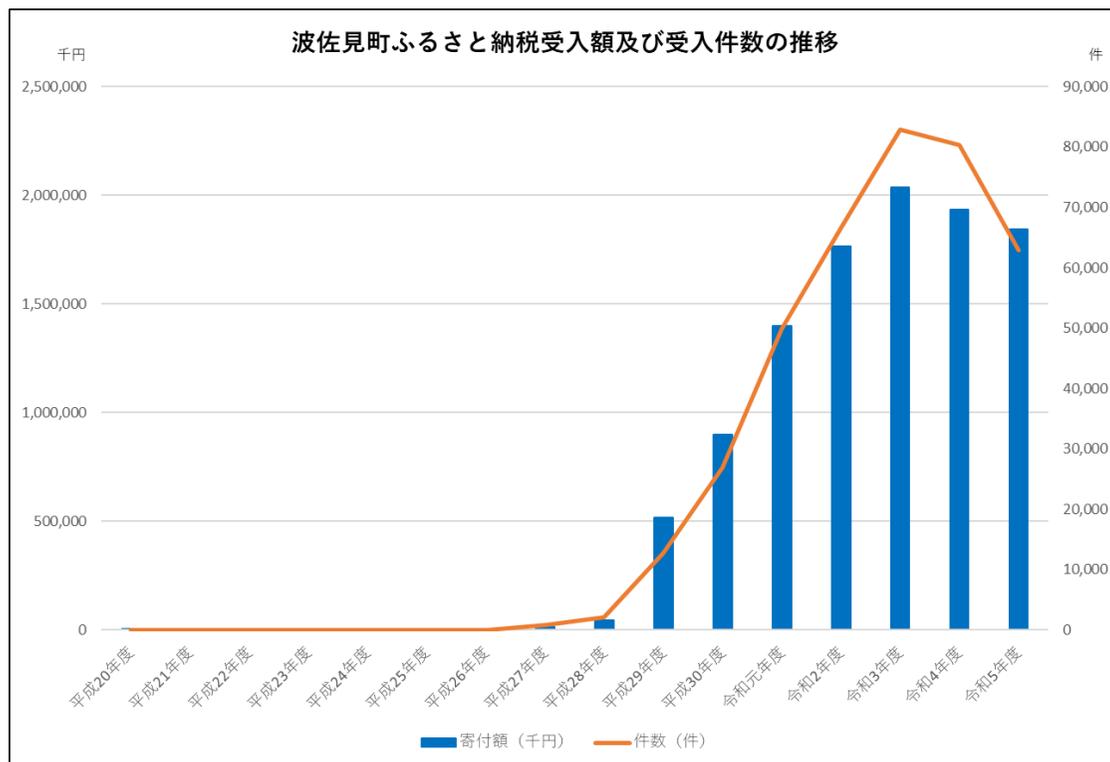
○ 波佐見焼の概要

- ・ 波佐見町では1580年頃から焼き物づくりが始まった。その後、朝鮮から渡ってきた陶工とその技術により1610年ごろから磁器（白磁、染付、青磁など）が焼かれるようになった。
- ・ 波佐見の焼き物はもともと有田焼の比較的価格の安い日用食器を担当し、有田焼として流通していた。2000年頃に日本全国で産地偽装問題が発生。不適正な表示が問題視される中、有田でつくられていない波佐見の焼き物は有田焼と名乗れなくなってしまうことから波佐見焼の名で販売が始まった。
- ・ 波佐見焼の知名度は全くない状態からスタートしたが、展示会への参加やSNSでの広告など、各企業や町の努力によりブランドを確立してきた。

他産地の動向

<長崎県 波佐見町の動向>

○ ふるさと納税の推移



出所：総務省 ふるさと納税に関する現況調査等

◇ 波佐見町のふるさと納税の推移を見てみると、知名度上昇に伴い寄付額が大幅に増加し、**令和3年度には20億円を超える寄付額になっている。**

◇ 波佐見町全体で波佐見焼の振興に取り組んだことで大きく飛躍した。

他産地の動向

<長崎県 波佐見町の動向>

○ 波佐見焼の課題、取組み

【課題】

- ・ ふるさと納税の推移をみても分かるように、需要が一巡し、近年は売上の伸びが鈍くなっている。
- ・ 人手不足、後継者不足（特に生地屋の人手不足が進んでいる）

【取組み】

- ・ 東京で開催される「テーブルウェア・フェスティバル」に出展し、各社が毎年新作を発表
- ・ ギャラリーショップを充実させることで観光客を誘致
- ・ 生地屋の人手不足、廃業に対応するため、内製化を図っている。
- ・ 工場見学を積極的に実施し、実際に焼きものの作りを体験してもらうことで波佐見焼ファンや働きたいと思ってもらえる人を増やしている。

他産地の動向

<長崎県 波佐見町の動向>

○ 波佐見焼のSDGsの取組み

【製造過程で排出される廃棄物を活用した事例】

- ・ 波佐見焼のほとんどは石膏型に生地を流し込んで成形している。石膏型は100回程度使用すると劣化するため、劣化したものは産業廃棄物として埋め立てられてきたが、数年前から長崎県の最終処分場が廃石膏型を受け入れなくなってしまった。そこで廃石膏型をリサイクルした肥料が開発された。波佐見町は焼き物産業だけでなく農業も盛んである。石膏由来の肥料は作物の細胞組織強化や根の発育促進などの効果が見込まれることや、石膏を粉砕するだけで加工でき低コストで済むなどのメリットがある。実際にこの肥料を使った米と茶わんのセット「八三三（はさみ）米くらわんかセット」を販売している。

